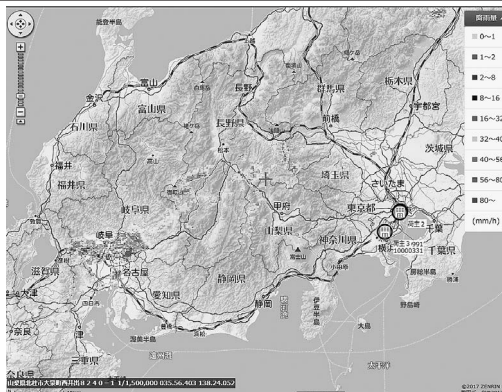


労務管理 画面で確認

運行支援
機能拡充

中小事業者へ普及



ネット型デジタコ

富士通グループのトランストロン(大岡信一社長、横浜市港北区)は、ネットワーク型デジタコルタコグラフ「DTS-DS1シリーズ」用の運行支援サービス「ITP-Web Service V2」の機能を拡充し、7月31日から提供を開始した。ユーザーの意見を反映し、ドライブレコーダー(DR)や地図機能を刷新したほか、労務管理に必要なデータを活用できるよう改良。長時間運転発生時の通知機能も加えた。中小事業者への一層の普及に向け、利便性を高めるとともに、法令順守につながる機能を増やしている。

(吉田英行)

トランストロン

DR機能の拡充では、撮り出しの操作状況を確認できる再生時に、映きるようになった。また、荷主の構内など特定エリア内

での撮影を自動抑止する機能も備え、荷主や女性ドライバーへの配慮、プライバシー保護に役立つ。撮影した動画はこれまで30秒単位で取得していたが、一度に2分30秒の動画を取得できるようにした。

拘束時間、休憩時間、最大連続運転時間といった労務管理に必要なデータは、従来は拘束時間確認表を参照する必要があった。今回の機能拡充により、1日の運行を振り返ってアドバイスする「運行コンシェルジュ」「点呼登録」「運行指示書」の各画面で確かめられるようになり、日々の運用の中で法令違反になっていないかをチェックできるようになった。

更に、動態表示に長時間運転警告の通知機能を加え、通知時にはドライバーに休憩を指示するなど、管理者による長時間運転防止

対策を促す。

日報・帳票機能では、運転免許証リーダーによる読み取りが未実施の場合、画面上と運転日報に表示し、免許証不携帯やリーダーにかざす動作の不徹底を防ぐ。温度チャートグラフは、1台当たりに印刷するグラフの数を設定できるようにし、グラフを拡大して見やすくすることが可能となった。

このほか、動態地図上でのルート検索機能や雨雲マップの表示、運行指示書への天気情報の表示などの機能も追加した。

運行支援サービスはクラウドで提供されているため、機能拡充は無料・自動で行われ、車載器側の再設定作業などは不要。24時間365日対応のコンタクトセンターによるサポート体制も整えている。

動態地図上に雨雲マップを表示できる